

作況ニュース（第3号）

水 稲

（発行：令和4年6月15日）（編集：令和4年6月13日）

発行：秋田県農林水産部

水 稲

6月上旬の低温により茎数は少ない

- －浅水管理で分けつの促進を－
- －高温時の異常還元に注意－

1 今後の気象の見通し

(1) 東北地方1か月予報（6月11日～7月8日）【令和4年6月9日 仙台管区气象台発表】

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。1週目は冷たい空気の影響で気温は低いですが、2週目は暖かい空気が流れ込みやすいため気温がかなり高くなる可能性があります。期間の前半は気温の変動が大きい見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率40%です。

週別の気温は、1週目（6月11日～6月17日）は、低い確率50%です。2週目（6月18日～6月24日）は、東北日本海側で高い確率50%です。

○ 次回の予報発表予定： 1か月予報 毎週木曜日14時30分

3か月予報 6月21日(火) 14時

【季節予報】

https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/102_00.html

2 県内の概況

(1) 天候の特徴

【秋田地方气象台】

5月下旬： この期間、天気は周期的に変わり晴れや曇りの日が多かったが、低気圧や気圧の谷の影響により雨が降った日もあり、27日から28日にかけては気圧の谷や湿った空気の影響により大雨となった所があった。

6月上旬： この期間、気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、雷雨となった所もあった。このため県の南部や内陸を中心に日照時間が少なく、気温も全県で低く低下した。

[旬統計値（秋田）]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (hr)	平年比 (%)	階級区分
5月下旬	18.7	+1.8	高い	41.0	107	平年並	76.9	107	平年並
6月上旬	16.0	-2.4	かなり低い	47.0	198	多い	54.7	80	少ない

(2) 本田の生育

1) 移植栽培

各地域振興局による定点調査（6月10日）では、あきたこまち（64地点）は、草丈24.3cm（平年比95%）、 m^2 当たり茎数109本（同69%）、葉数5.9葉（平年差-0.2葉）であった。ひとめぼれ（8地点）は、草丈28.3cm（平年比103%）、茎数225本/ m^2 （同93%）、葉数6.5葉（平年差-0.1葉）であった。（表-1）

あきたこまちの定点における移植日の平均は、平年より1日早い5月19日となった。茎数は全県で平年よりかなり少なく、県南で平年比72%、県北では平年比66%とかなり少なかった。

ひとめぼれの定点移植日の平均は、平年より3日早い5月13日で、草丈はやや長く、葉数は平年並からやや少なかった。茎数はひとめぼれにおいても平年より少なかった。

6月上旬からの低温の影響により、県全域で初期生育が停滞し、分けつ茎の発生が抑制され、特に5月下旬以降に移植したほ場での影響が大きくなった。

表-1 定点調査結果（6月10日調査）

品種	地区	草丈			m^2 当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
あきたこまち	県北	25.5	97	95	122	90	66	6.2	0.0	-0.2
	中央	25.0	98	98	121	113	74	6.3	0.2	0.0
	県南	22.9	92	93	94	92	72	5.4	-0.3	-0.4
	全県	24.3	95	95	109	95	69	5.9	0.0	-0.2
ひとめぼれ	中央	28.3	98	103	225	103	93	6.5	-0.1	-0.1

※平年値：平成24年～令和3年までの過去10年平均

表－２ 気象感応試験の生育状況（あきたこまち、6月10日調査）

試験区	移植日	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
標植	5月16日	28.0	111	107	192	74	85	7.1	-0.3	+0.1
晩植	5月25日	20.7	92	91	114	114	94	6.0	+0.1	-0.1

注：平年値は、標植は平成12年～令和3年、晩植は平成29年～令和3年の平均値を用いた。

農試水田の標植区では、草丈は28.0cm（平年比107%）、㎡当たり茎数は192本（同85%）、葉数は7.1葉（平年差+0.1葉）だった。（表－2）

また晩植区では、草丈は20.7cm（平年比91%）、㎡当たり茎数は114本（平年比94%）、葉数は6.0葉（平年差-0.1葉）だった。

2) 直播栽培

6月10日現在の農試及び定点の生育概況は、湛水直播のあきたこまちでは、全県平均で苗立率は63.8%、㎡当たり苗立数は92本、草丈17.3cm、㎡あたり茎数は97本、葉数は4.2葉であった。平年に比べて苗立数、葉数は平年並、草丈は長かったが、㎡当たり茎数は少なかった。（表－3）

表－3 農試、定点調査結果（湛水直播：品種 あきたこまち、各地域振興局6月10日調査）

設置場所	播種月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	㎡当たり苗立数			草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		播種 10日後	播種 20日後		本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差	平年差
農試	5/10	63.4	72.0	72.0	98	100	118	18.3	101	110	105	103	74	4.0	+0.1	±0
大館市	5/13	41.0	39.9	27.5	51	40	50	19.7	126	116	51	40	35	4.1	-0.1	+0.1
井川町	5/10	67.0	78.2	76.3	104	114	103	15.3	116	93	122	133	77	4.5	+0.7	+0.1
美郷町	5/6	55.3	60.3	80.1	125	78	134	19.1	109	119	125	71	90	5.0	+0.3	+0.8
横手市	5/17	49.6	58.1	63.3	80	80	86	14.2	105	89	80	75	58	3.5	-0.2	-0.7
全県	5/11	55.3	61.7	63.8	92	82	98	17.3	112	105	97	84	67	4.2	+0.2	+0.1

*農試：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（実測値）×100

その他地点：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（播種量からの推定）×100

(3) 病害虫の発生概況

1) 斑点米カメムシ類

6月2半旬までの牧草地すくい取り調査（北秋田市、秋田市、大仙市）において、アカヒゲホソミドリカスミカメの越冬世代成虫の発生時期は早かった。アカスジカスミカメの越冬世代成虫は秋田市と大仙市で確認されており、発生時期は早かった。

3 当面の技術対策（6月中旬～下旬）

6月上旬の低温などにより、活着の停滞や生育初期の分げつ発生が少ないほ場が多い。本年産米の品質や生産の安定に向けて強勢茎主体の穂数を確保するためには、6月中～下旬は有効茎を確保する重要な時期であることから、各ほ場の生育状況に応じたきめ細かな栽培管理を行う。

（1）水管理

分げつ発生が少なく、茎数の不足しているほ場が多いことから、浅水管理を徹底して分げつの発生を促進する。また、水温と地温を高めて日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行う。中苗の移植栽培では第3号から第6号までの1次分げつ、直播栽培では第1号から第4号までの1次分げつを確保する。

6月18日以降に高温が予想されることから、還元しやすい土壌では、短期間の落水や水の入替えにより異常還元を防止する。

目標茎数を確保したら、中干しを開始し、新たな分げつを抑制する。

（2）直播栽培の追肥

目標の苗立数（㎡当たり80～100本）が確保できていれば2～4葉期の追肥は必要ないが、㎡当たり苗立数が60本以下の場合は10a当たり窒素成分で2kg以下の追肥を行う。5葉期以降の追肥は倒伏を招くので行わない。

（3）いもち病予防のため余り苗は直ちに処分

余り苗で発生したいもち病は、周辺ほ場への強力な伝染源となるので、余り苗は土中に埋めるなどして直ちに処分する。

（4）葉いもち防除の水面施用剤は適期に散布

移植栽培での葉いもちの全般発生開始期は平年では7月2半旬であるが、全般発生開始期が早まると葉いもちや穂いもちが多くなる傾向がある。葉いもち防除の水面施用剤は初期の発病を抑えることで葉いもちの発生量を少なくするので、側条施用剤や箱施用剤を使用していない場合は、オリゼメート粒剤10a当たり2kg、又はルーチン粒剤10a当たり1kgを6月15日頃（6月12～18日）に水面施用する。

直播栽培では移植栽培に比べて葉いもちの全般発生開始期が遅れる傾向があるため、播種時に防除剤を施用していない場合は、オリゼメート粒剤10a当たり2kg、又はルーチン粒剤10a当たり1kgを6月23日頃（6月20～25日）に水面施用する。

（令和4年度版秋田県農作物病害虫・雑草防除基準p.22～27、41～43参照）

（5）初期害虫の防除

移植日の遅いほ場や直播栽培では生育量が小さいため、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネミズゾウムシ等の初期害虫による食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。（防除基準p.30～34、43～44参照）

(6) 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内のホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するので、下記(8)を参照し水田内の除草に努める。

また、農道・畦畔などのイネ科雑草でも増殖することから、農道・畦畔や法面、休耕田等の雑草地は、地域でまとまって一斉に除草し、斑点米カメムシ類の密度低下を図る。(防除基準p. 37~39参照)

(7) 表層剥離・藻類等の防除

表層剥離やアオミドロ等の発生が多くなると地温や水温が低下し、生育が抑制されるので適切な対策を講ずる。対策としては、気温の低い早朝や雨の日の水の入替えを基本とする。移植栽培では、水管理で十分な効果が見られない場合は、中耕機による攪拌やモグトン粒剤(ACN剤)を散布する。

(8) 中・後期除草剤の適正使用

中・後期剤の使用にあたっては、ほ場の発生草種や生育程度を観察して、それぞれの雑草に除草効果の高い剤を選択する。また、十分に湛水ができないほ場では水面施用除草剤の十分な効果が得られない。用水確保が難しいほ場では茎葉散布剤の使用などほ場条件に合わせて防除する。

1) 移植栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤/ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤/スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。ヒエクリーン1キロ粒剤/ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤/スケダチエース1キロ粒剤の使用時期はノビエ4葉期までだが、効果発現に日数を多く要するので早めに散布する。クリンチャー剤は粒剤、ジャンボ剤、液剤によって使用時期や使用量が異なる。また、クリンチャー剤は散布後に発生したノビエには効果がない。
- ②ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、アトトリ豆つぶ250、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC、フォローアップ1キロ粒剤/ワイドアタックD1キロ粒剤で対応する。(防除基準p. 315~318参照)

2) 直播栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、クリンチャー剤、ヒエクリーン1キロ粒剤/ワンステージ1キロ粒剤のいずれかを散布する。
- ②ノビエ以外の難防除雑草(ホタルイ類、コナギ、オモダカ等)が主に見られる場合は、バサグラン液剤を散布する。
- ③ノビエ及び難防除雑草が見られる場合は、マメットSM1キロ粒剤、ザーベックスDX1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCを散布する。
(防除基準p. 322~325、p. 332~333参照)

(9) ばか苗病の早期発見と早期処分

採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと土中に埋めて処分する。発病株の処分は遅くとも6月末までに終える。

(10) アワヨトウの飛来

長距離移動性害虫であるアワヨトウ成虫の飛来が確認されており、今後の発生に注意する。

第1世代幼虫は6月下旬以降に休耕田等からの移動・加害に注意する。発生が多い場合は若齢期（体長1cm以下）の防除に努める。

(11) 農薬の飛散・流出防止の徹底

農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

(12) 農作業安全対策の徹底

次の注意事項を守り、十分な安全対策を講ずる。また、これから気温が高くなる時期を迎えるため、こまめな水分補給や休憩を取るなど、農作業中の熱中症対策を行う。

- ①体調管理を万全にし、心身とも健康な状態で作業を実施する。
- ②作業は計画的に実施し、長時間や夜間の作業は避ける。
- ③運行する道路やほ場の危険箇所を確認する。
- ④点検・修理はエンジンを停止して行う。
- ⑤機械の点検・整備を徹底する。
- ⑥軽トラック、トラクタ運転時のシートベルトの着用を徹底する。
- ⑦日中の気温の高い時間帯を外して作業する。
- ⑧単独作業は避け、声かけ等により体調に異常がないか確認しながら作業を行う。

【時期別・主要作業別指導事項】

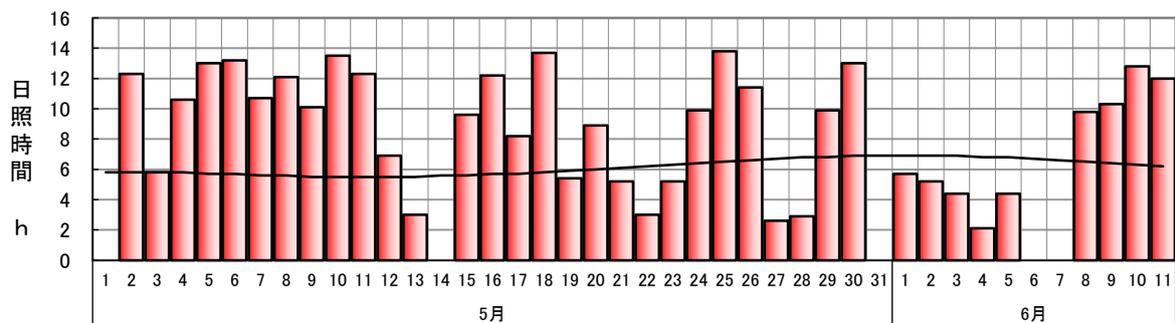
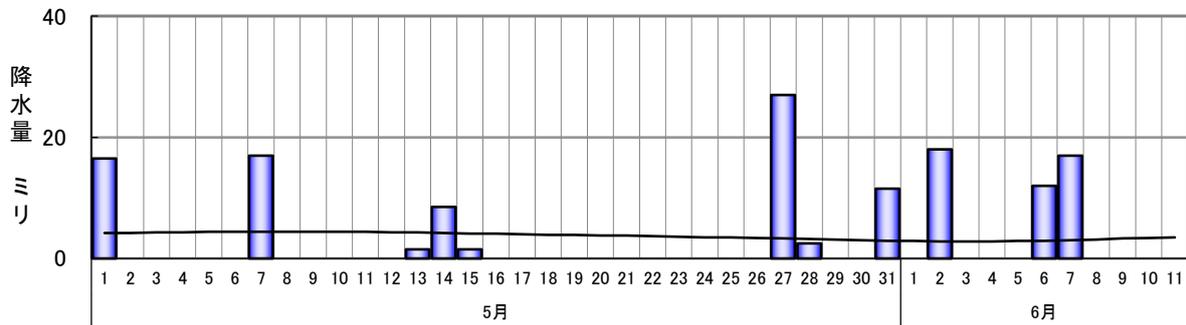
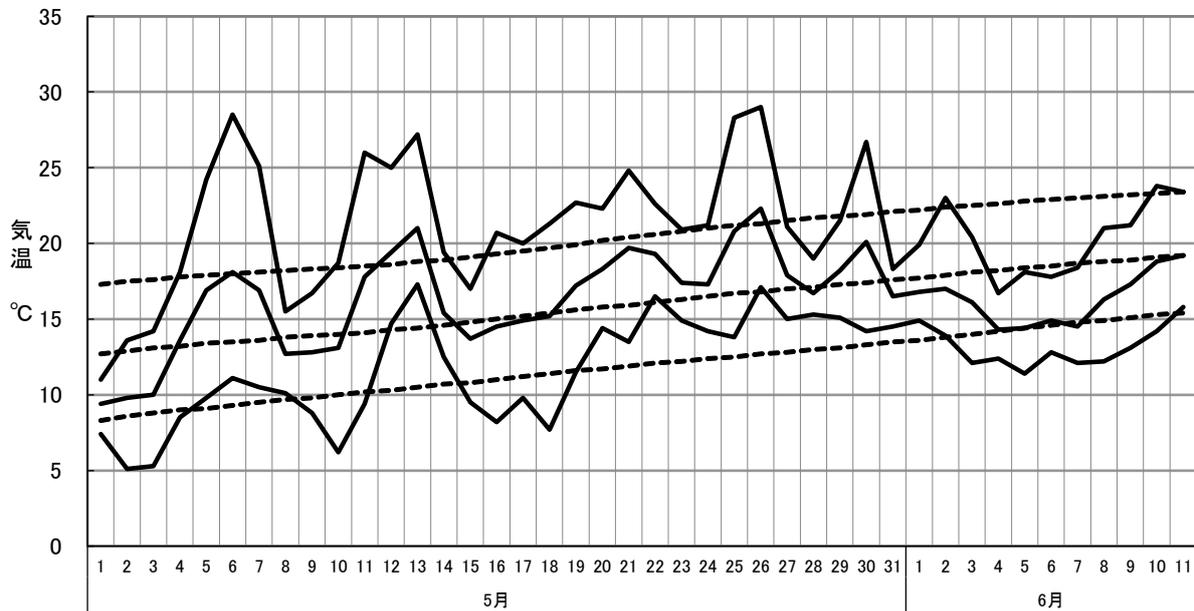
月旬	作業の種類	主な指導事項
6月中旬 ～ 6月下旬	水管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 浅水管理の徹底により分けつの確保に努める。 ○ かん水は早朝に行い、短時間で終わるようにする。 ○ 目標茎数を確保したら、中干しで分けつを抑制する。 ○ 落水しにくいほ場や異常還元ほ場では、中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図る。
	表層剥離・藻類等の防除	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水の入替え等で対応する。 ○ 移植栽培では必要に応じて中耕機による攪拌やモゲトン粒剤（ACN剤）を散布する。
	余り苗の処分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 余り苗にいもち病が発生すると、強力な伝染源となるので、余り苗は、直ちに土中へ埋め込んで処分する。
	直播水稻の追肥	<ul style="list-style-type: none"> ○ 苗立数が60本/㎡以下の場合は、5葉期までに10a当たり窒素成分で2kg以下の追肥を行う。
	中・後期除草剤の適正使用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 湛水管理が難しい場合は、茎葉散布剤で防除する。 ○ ノビエが見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。 ○ ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC等で対応する。
	葉いもち防除	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移植栽培で側条施用剤や箱施用剤を使用していない場合は、遅くとも6月18日までにオリゼメート粒剤を10a当たり2kg、またはルーチン粒剤を10a当たり1kg散布する。 ○ 直播栽培で播種時に側条施用剤を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤を10a当たり2kg、またはルーチン粒剤を10a当たり1kg散布する。
	初期害虫の防除	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月に移植したほ場や直播栽培では生育量が小さく、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）やイネミズゾウムシの食害によってイネの生育が抑制されることがある。害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。
	ばか苗病の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと抜き取って土中に埋めて処分する。 ○ 発病株の処分は遅くとも6月末までに終わる。
	畦畔等雑草の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 斑点米カメムシ類の増殖を抑える（密度低下）ため、草刈りなど雑草管理は地域でまとまって行う。
農薬飛散・流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。 	

資 料 編

1 気象経過

(1) 令和4年5月1日から6月11日の気象経過図(観測地点：秋田地方気象台)

(資料 秋田地方気象台)



(2) 旬別気象状況 (秋田市)

(資料 秋田地方気象台)

項目 \ 時期	5月上旬		5月中旬		5月下旬		5月 計	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
平均気温(℃)	13.3	-0.3	16.7	+1.9	18.7	+1.8	16.4	+1.2
降水量(mm)	33.5	75%	11.5	27%	41.0	107%	86.0	69%
日照時間(h)	101.3	176%	80.2	144%	76.9	107%	258.4	140%

項目 \ 時期	6月上旬	
	本年	平年比較
平均気温(℃)	16.0	-2.4
降水量(mm)	47.0	198%
日照時間(h)	54.7	80%

(3) 各地域の気象経過

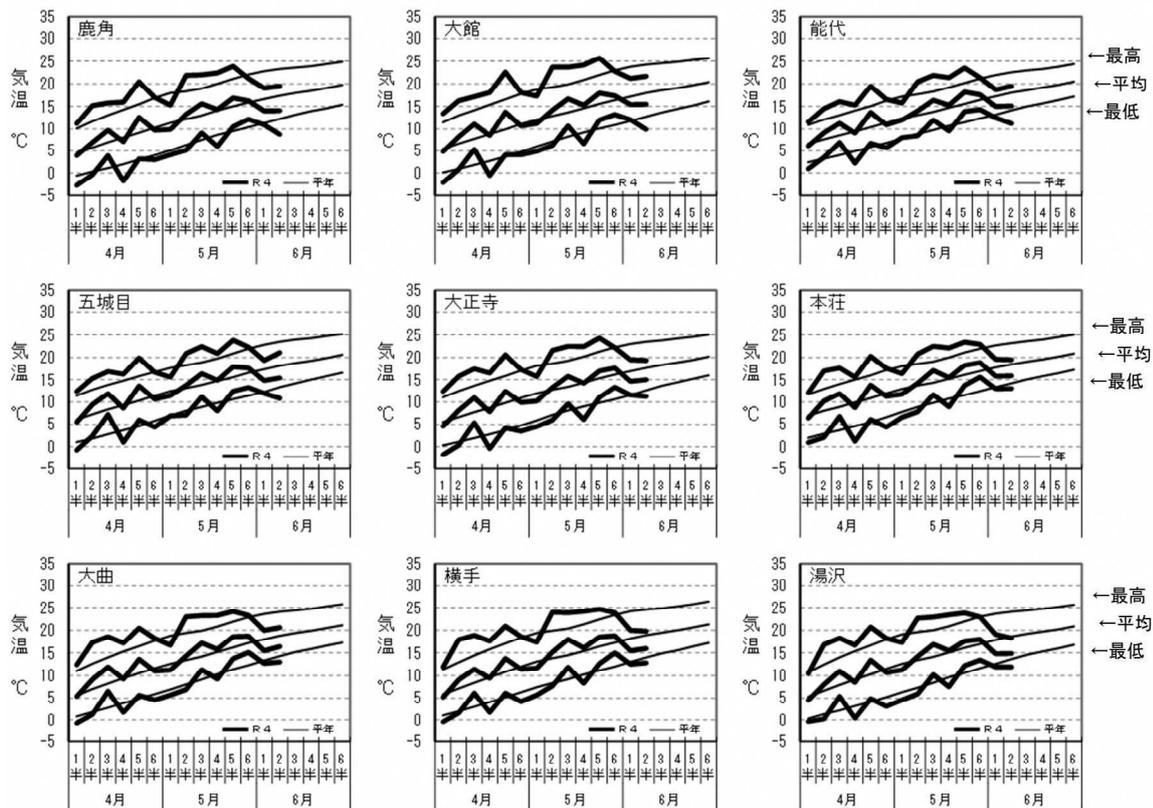


図-1 各地域の日照時間の推移(半旬別、アメダス観測地点別、6月10日現在)

2 農作業進捗調査結果（各地域振興局調査）

区分	地域	始期（5%）			盛期（50%）			終期（95%）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
田 植 作 業	県北	5/13	5/15	5/15	5/21	5/23	5/22	5/28	5/30	5/29
	中央	5/8	5/11	5/11	5/19	5/19	5/19	5/29	5/29	5/29
	県南	5/14	5/17	5/17	5/23	5/24	5/24	5/30	5/31	5/31
	全県	5/11	5/13	5/13	5/22	5/23	5/23	5/30	5/30	5/30

3 水稻定点調査結果（各地域振興局6月10日調査）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
鹿角	5	23.5	88	88	111	75	58	6.0	0.0	-0.3
北秋田	9	25.9	98	94	129	86	62	6.2	-0.1	-0.3
山本	9	26.2	101	100	120	105	77	6.4	0.2	0.1
秋田	10	25.7	100	98	125	116	72	6.5	0.3	0.0
由利	2	21.6	88	93	97	92	79	5.4	-0.4	-0.2
仙北	10	24.4	104	98	106	105	69	5.7	0.4	-0.1
平鹿	11	20.9	84	89	78	76	68	5.0	-0.6	-0.7
雄勝	8	23.9	91	95	100	98	79	5.6	-0.6	-0.4
全県平均	64	24.3	95	95	109	95	69	5.9	0.0	-0.2
6月10日の 理想生育量		目標	下限	上限	目標	下限	上限	目標	下限	上限
	県北	24	23	26	159	140	179	6.2	5.9	6.4
	中央	25	23	27	174	145	204	6.3	6.0	6.6
	県南	24	23	25	125	113	138	5.8	5.6	6.0

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
秋田	2	26.1	92	101	269	123	117	6.3	0.2	0.1
由利	6	29.0	100	102	211	97	84	6.6	-0.2	-0.1
中央地区平均	8	28.3	98	103	225	103	93	6.5	-0.1	-0.1

4 関連成績

(1) 気象感応試験（あきたこまち）

1) 生育概況

表－3 気象感応試験の生育状況（6月10日調査）

試験区	移植日	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
標植	5月16日	28.0	111	107	192	74	85	7.1	-0.3	+0.1
晩植	5月25日	20.7	92	91	114	114	94	6.0	+0.1	-0.1

注：標植の平年値は平成12～令和3年の平均値、晩植の平年値は平成29～令和3年の平均値を用いた。

標植区では、草丈は28.0cm（平年比107%）、㎡当たり茎数は192本（同85%）、葉数は7.1葉（平年差+0.1葉）だった。晩植区では、草丈は20.7cm（平年比91%）、㎡当たり茎数は114本（平年比94%）、葉数は6.0葉（平年差-0.1葉）だった。

5月4～5半月は気温が高く、日照時間も多かったことから、標植区の活着は、良好だった。晩植区も移植から5日間は平年より気温が高く、活着は順調だった。しかし5月末からの低温、特に最高気温が低く、気温日較差の小さい期間が、10日間程度続いたため、分けつ茎の発生が停滞し、6月10日調査の茎数は平年より少なくなったと推定される。

表－4 出葉状況（気象感応試験）

試験区	年次	出葉期								
		5葉	6葉	7葉	8葉	9葉	10葉	11葉	12葉	13葉
標植 (5月16日移植)	R4	5/19	5/26	6/1	6/10					
	R3	5/20	5/25	6/2	6/8	6/13	6/18	6/25	7/5	7/13
	平年	5/24	5/29	6/4	6/11	6/16	6/23	7/2	7/11	7/18
	平年差	-5	-3	-3	-1					
晩植 (5月25日移植)	R4	5/28	6/5							
	R3	6/1	6/5	6/10	6/15	6/20	6/26	7/5	7/15	7/23
	平年	5/31	6/5	6/11	6/16	6/22	6/27	7/5	7/14	7/21
	平年差	-3	+0							

注：標植の平年値は平成12～令和3年の平均値、晩植の平年値は平成29～令和3年の平均値を用いた。

移植時葉数の平年値は標植は3.4葉、晩植は3.5葉。

令和4年の移植時葉数は標植3.8葉、晩植5月25日3.9葉

標植区の出葉は、6葉と7葉では平年より3日早かったが、5月末から6月上旬の低温により、8葉の出葉が停滞し、平年より1日早い程度だった。また晩植区の出葉期も、5葉では平年より3日早かったが、6葉の出葉は平年並になり、7葉の出葉は停滞している。

2) 分けつの発生状況（6月10日調査）

標植区における分けつの初発生は5月29日で平年より1日早く、分けつ発生は平年を上回って推移し始めたが、6月5日以降に分けつ発生は停滞した。5月16日移植の

標植区における分けつの初発生は5月29日で平年より1日早く、以降の分けつ発生は平年を上回って推移し始めたが、6月5日以降に分けつ発生は停滞した。10個体当たりの1次分けつの発生本数は2号分けつは0本（平年値2本）、3号は8本（同6本）、4号は10本（同9本）、5号は1本（同10本）であり、出葉が停滞していることから、5号分けつの発生も停滞していると推定される。

5月25日移植の晩植区では、分けつの初発生は6月8日で平年より2日遅く、増加程度も緩慢だった。1次分けつの発生本数は2号分けつは0本（平年値2本）、3号は5本（同6本）、4号は未発生（同10本）だった。標植区と同様に、分けつの発生は停滞している。

3) 定点（あきたこまち）の生育状況

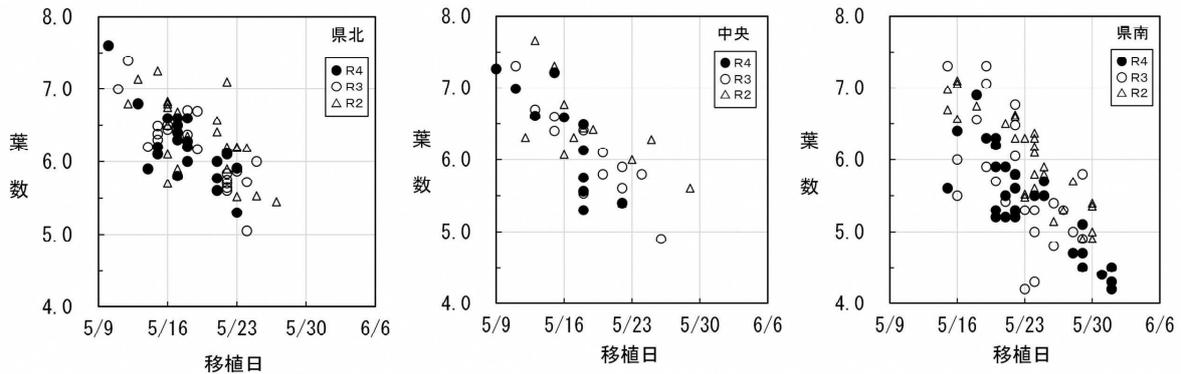


図-2 移植日と葉数の関係（あきたこまち、6月10日定点調査）

県北と中央では、本年は移植日が早い傾向だった。県南では5月25日以前と5月28日以降で移植日が分かれた。全地域とも移植日と葉数の関係は前年、前々年と同じ傾向だった（図-2）。

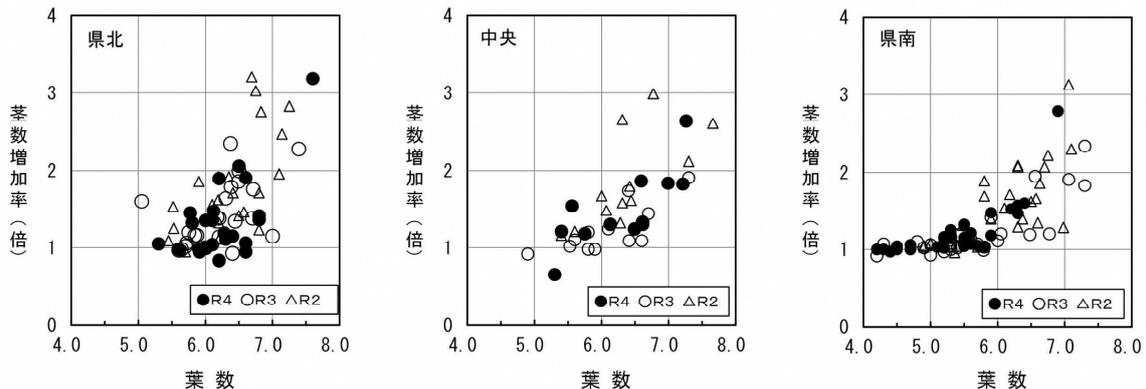


図-3 葉数と茎数増加率の関係（あきたこまち、6月10日定点調査）

$$\text{茎数増加率} = \text{茎数} \div \text{植え付け本数}$$

（注：中苗の場合、主程第6葉伸展中（5.1～6.0葉）に3号分けつ（以下3号）、主程第7葉伸展中（6.1～7.0葉）に4号分けつ（以下4号）が発生。植え込み本数に対して3号のみが全主程に発生した場合、茎数増加率は2。さらに4号が完全に発生した場合の茎数増加率は3になる。）

あきたこまちの定点調査ほ場の葉数と茎数増加率の関係（図-3）は、県北と中央では、概ね前年と同様の分布になっているが、県北で6～7葉間に分布しても茎数増加率は1付近にある地点が、やや多くみられた。県南では、葉数の分布は前年、前々年より少ない方に多く、茎数増加率も1付近に多かった。

(2) 直播作況試験

1) 直播水稻の出芽・苗立

農業試験場の播種粒数は137粒/㎡（平年140粒/㎡）であった。苗立率は72.0%で、平年差+11.5ポイントと平年を上回った。㎡当たり苗立数は98本/㎡となり平年を上回った。（表－5）

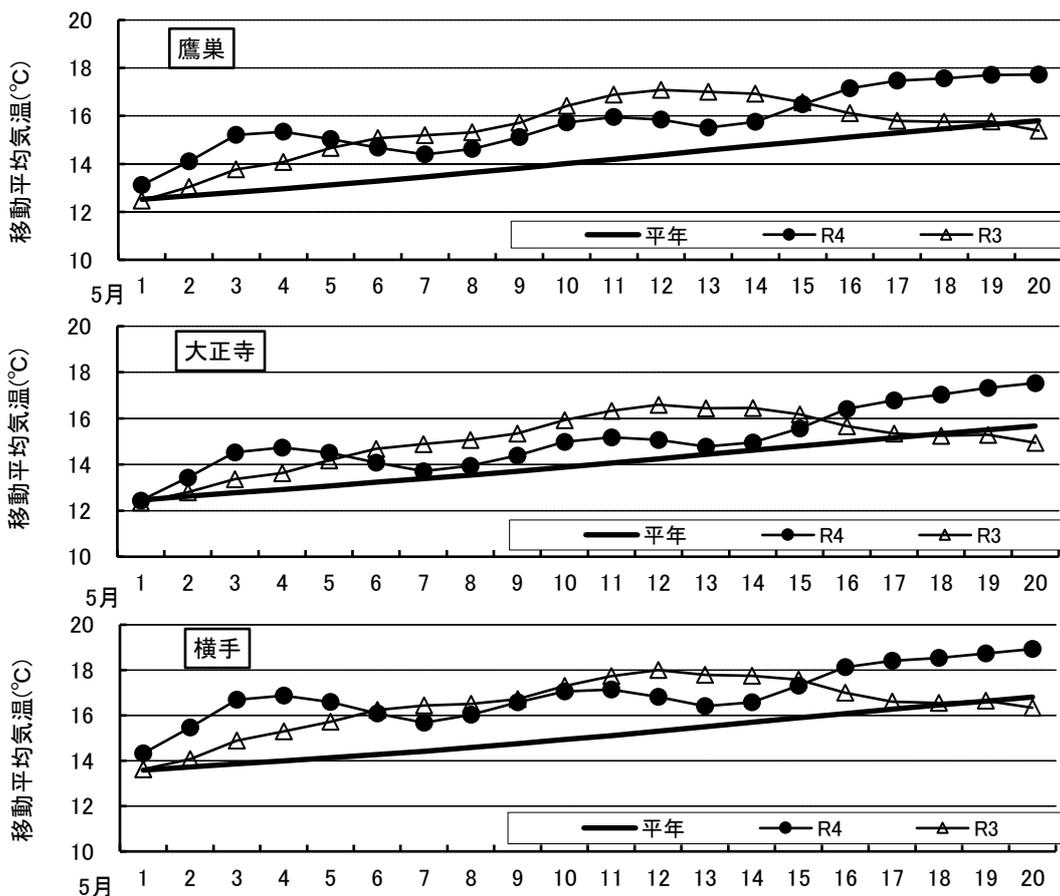
本年は、播種後10日間の平均気温が高く、5月4半旬の高温により出芽は良好であった。そのため、苗立率および苗立数は平年を上回った。（図－4、5）

播種後、出芽率10%に達した日までは6日（平年差－1日）、播種から出芽揃期（苗立数の90%が出芽した日）までは15日（同＋2日）と、出芽揃期は平年よりもやや遅くなった。（図－6）

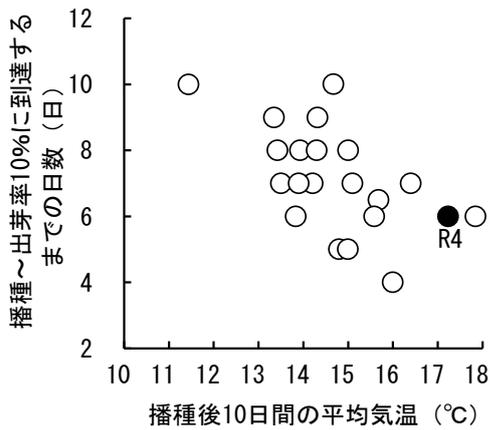
表－5 農試直播作柄解析ほ場の苗立（あきたこまち、湛水土中条播、6月10日調査）

播種 月日	苗立率			㎡当たり苗立数		
	本年 (%)	前年差	平年差	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)
5/10	72	-0.7	+11.5	98	100	118

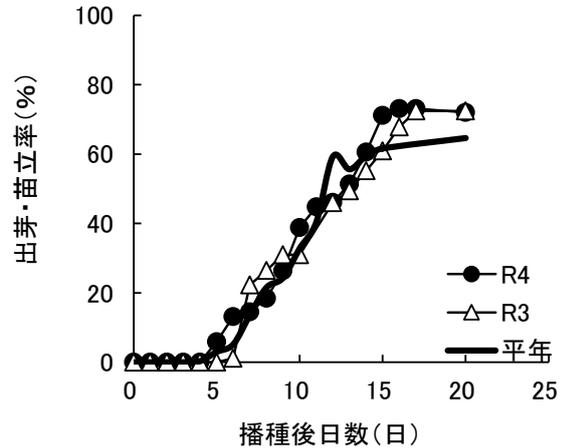
注）平年値：過去10年間（H24～R3）の平均値



図－4 播種日と翌日から10日間の移動平均気温（アメダスデータ）



図－5 播種後10日間の平均気温と
出芽率の関係（H14～R4年）



図－6 出芽・苗立率の推移

注) 平年値：過去10年間（H24～R3年）の平均値

2) 直播水稻の生育概況（6月10日現在）

6月10日調査の生育状況は、草丈18.3cm（平年比110%）、 m^2 当たり茎数は105本（平年比74%）、葉数は4.0葉（平年差±0葉）であった。（表－6）

本年の農業試験場における直播水稻の生育は、平年と比較して葉数は平年並、草丈は平年よりも長かったが、茎数増加が緩慢で m^2 当たりの茎数は少なかった。

表－6 農試直播作況ほ場の生育概況（あきたこまち、湛水土中条播、5月10日播種、6月10日調査）

調査 月日	草丈			m^2 当たり茎数			茎数増加比			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
6/10	18.3	101	110	105	103	74	1.1	+0.1	-0.6	4.0	+0.1	±0

注1) 平年値：過去10年間（H24～R3）の平均値

注2) 茎数増加比＝茎数/苗立数

注3) 苗立数は6月10日現在で m^2 当たり98本（平年比118%）

秋田米栽培 情報発信LINE 始めます！



水稻栽培に関する情報を
リアルタイムで発信します

秋田県内の水稻生育状況
水稻・大豆の技術情報
異常気象対策
その他、秋田米に関する情報



友達追加は
こちらから

友達登録手順はこちら



秋田県農林水産部水田総合利用課 <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>

各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXでお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿角地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山本地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋田地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由利地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-8354	0184-22-6974
仙北地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平鹿地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄勝地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場

TEL 018-881-3330

作物部

内線(422・423・424)

生産環境部

内線(306・310)

秋田県病虫害防除所

TEL 018-881-3660

秋田地方气象台

TEL 018-864-3955

東北農政局秋田県拠点 統計チーム

TEL 018-895-7303

秋田県農林水産部水田総合利用課 (農産・複合推進班)

TEL 018-860-1786

園芸振興課 (調整・普及班)

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は6月29日(水)の予定です】